

地名と地形から見る防災について

史 中超 研究室

1461089 丸山 誠

1. 研究背景・目的

日本では自然災害が多発しており、多くの人々が自分の住んでいるまちが自然災害に強いのか関心を持っていると思われる。まちの地名には当然ながらそれぞれ由来がある。地名は地形や土地の特徴から命名されることが数多くあり、その命名方法はもっとも一般的である。本研究では、地名に含まれる漢字と地形の特性との関係を分析したうえで、その分析の結果を住民にとってなじみのある災害対策や宅地の選定に活用することを目的とする。

2. 研究方法

Google Earth Pro[1]で現在の地形の上に古地図を表示できるレイヤ「ラムゼイ歴史地図」を用いる。まず、古地図で過去の周辺の状況を地名の由来とあわせて分析する。次に、国土地理院が公開している地理院地図[2]の土地条件図を用いて土地の特徴の分析を行う。また、港区のハザードマップの液状化マップを用いて災害との関係性を分析する。本研究では山手線の駅名を対象として分析を行う。山手線には 29 駅あり、そのうち 18 もの駅が水辺や窪地等の地形を表す漢字が含まれる。駅名はその場所を代表する名前であるため、地形の特徴を推測することが可能であると考えた。今回は新橋駅をはじめ、浜松町駅、田町駅、品川駅、大崎駅、五反田駅と 6 つの駅について分析する。

3. 古地図と地名の由来について

まず、地名の由来について、様々な説があるが、本研究では港区[3]等自治体で紹介されている以下の地形に関わる説を用いる。

- ① 新橋：江戸湾の埋め立てによってできた汐留川に「新しくかけた橋」に由来。
- ② 浜松町：この地域の名主が浜松出身であったことと、かつては近くまで海岸線であり「浜」があったことに由来。
- ③ 田町：「水田」だった場所を埋め立てて「町屋」に開発したことに由来。
- ④ 品川：かつて近くにあった「品川」という川の河口付近であったことや、目黒川の古い呼び名が「品川」でその下流を品川という地名としたことなどに由来。
- ⑤ 大崎：秩父から続く尾崎（平野に入り込んだ山裾の先端部分）であることに由来し、これが転訛して「大崎」となったとする説や、過去に「大きな崎（岬）」として東京湾に突き出ていたためとする説など諸説あり。
- ⑥ 五反田：江戸時代に目黒川周辺の「水田」の区画が一区画「5 反（約 5000m）」だったことに由来。

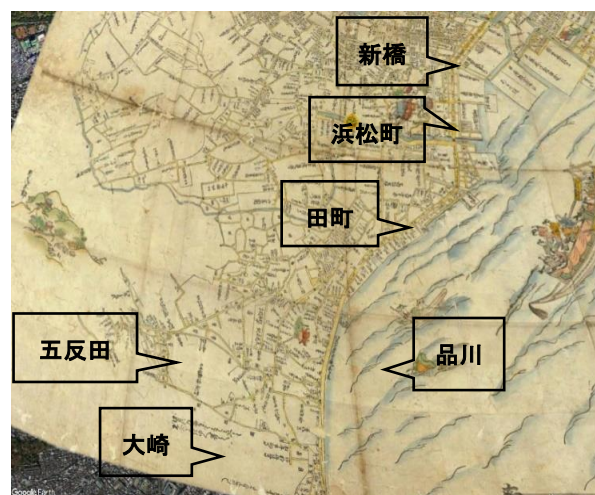


図 1 対象地周辺の 1680 年の古地図[1]

次に、古地図と地名の由来から地形の特徴を分析する。図1は1680年の古地図に各駅の場所を示す。これらの駅周辺は埋め立てられた土地が多くあることが読み取れる。特に、浜松町、田町、品川周辺は海岸線もしくは海上であったことがわかる。また、「田」町、五反「田」とあるように、現在ではほとんど見られない水田の痕跡が確認できた。古地図と由来の地形の特徴が似ているため、地名と地形は関係があると考えられる。

4. 土地条件図・ハザードマップによる分析

本章では土地条件図とハザードマップを用いて現在の地形の特徴と災害との関係を分析する。図2は土地条件図の対象地域周辺を示す。広範囲にわたって高い盛土地、盛土地・埋立地が多くあることがわかる。駅ごとに細かく見ると新橋駅、浜松町駅、田町駅、品川駅周辺は古地図や由来での分析でもわかったようにほとんどが埋め立てによってできた土地である。また、田町品川間には砂州や砂丘があるため、かつての海岸線だと考えられる。これらのような海を埋め立て人工的に陸化した人工地形は地盤も強くなく揺れやすい地形だと考えられる。また、もともと水があった場所は強い地震の際に液状化のリスクも高いため、これらの駅周辺は地震に弱い地形だということが推測できる。

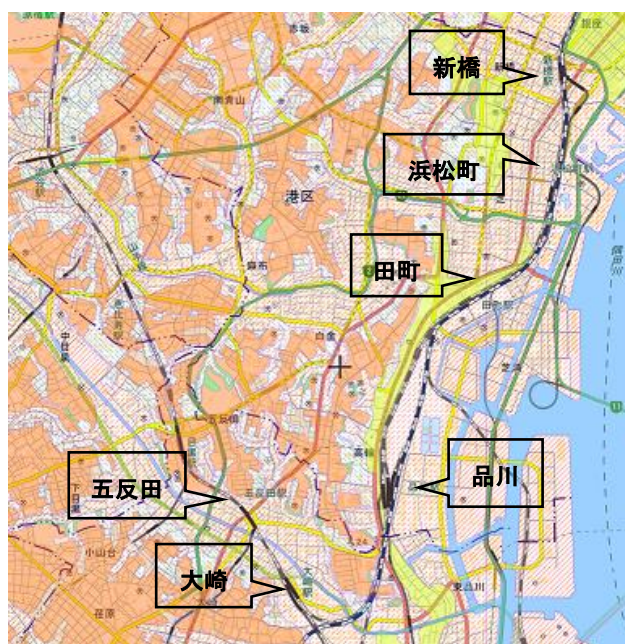


図2 対象地域周辺の土地条件図[2]

図3は港区で公開されている液状化ハザードマップ[3]である(新橋、浜松町、田町、品川の4駅が含まれている)。ハザードマップを見ると土地条件図で地形の特徴を分析した通り、やはり埋立地などの人工地形に被害の予想が集中していることが示されている。したがって、災害と地形とも関係があることがわかる。

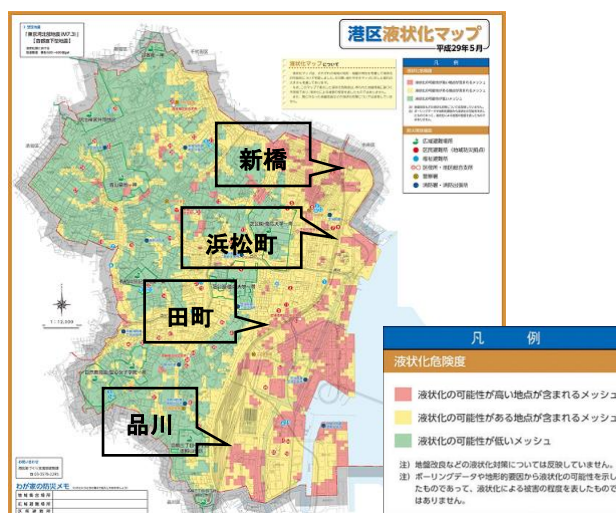


図3 港区液状化マップ[3]

5. まとめ

地名の由来、古地図、土地条件図、ハザードマップを照らし合わせると、地名には地形から名づけられたものが多くあり、その名前に含まれる漢字が地形や地盤の特徴を表していることがわかった。特に、水に関わる漢字が使われている地名ではその由来も水に関わっていることが示されていることがわかった。経年変化により、今現在見ることのできない地形も地名に現れることがあるため、特徴や地盤の強さなどをある程度は予測でき、まちづくりや防災計画などを立てる際に有効的に活用できるだろう。

6. 参考文献

- [1] Google Earth Pro
- [2] 地理院地図
<http://www.gsi.go.jp/bousaichiri/chikeibunrui.html>
- [3] 港区
<https://www.city.minato.tokyo.jp/kouhou/kuse/gaiyo/chimerekishi/index.html>